

平成25年度

# 「学生によるオレンジリボン運動」 四国大学 実施報告書



実施主体 看護学科、課題探求ゼミ2年生、母性看護学総合実習4年生  
実施内容 平成25年11月8～10日の大学祭・ゆめタウン来場者に啓発活動

## ①事前に取り組んだ内容

命の継承、育児支援、虐待の現状、オレンジリボンの成り立ちについて、学生の検索資料をもとに学習会を開き基礎知識を共有する。次に、年代別に伝えたいメッセージ内容の討議、子育てほっとスペース『すきっぷ』の代表者と学生主体のオレンジリボン運動の実施と運用方法の調整。配布資料・ポスターの作成を行う

## ②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭：展示物の説明、パンフレット配布とアンケート調査  
ゆめタウン来場者へのパンフレット配布、ふれあい広場46組の親子に遊びの支援とパンフレット、オレンジリボン配布、  
中学生200人に「赤ちゃんふれあい体験」の支援とパンフレット配布

## ③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動に参加して、地域住民のオレンジリボン運動に対する認知度は低く、児童虐待予防への関心も低いことが分かった。小さい子どもがいる家庭では虐待やオレンジリボン運動への関心度も高いように感じたが、子育て広場利用者58人中、知っている人は3人と極めて少なく、オレンジリボンが世間的に認知されていない現状にあることが分かった。私は、助産師として働く中で、子育てがしやすく、子ども虐待がなくなるような看護をしていきたいと考えている。大学祭来場者139人の虐待のイメージについては「身体暴力を挙げたものが一番多く、ついで育児放棄、言葉の暴言、性的な関係、無視をする」の順であった。

